



島守回塔

鉄の暴風と言われた激しい空襲、艦砲射撃、上陸戦の慟望に追いついた沖撃戦。その中で生きる!と後世に一筋の命を託した2人の官僚と沖縄の人々の物語を映画化。

著原聖人 村上 淳
吉岡里鶴 池間夏海
根本聖園 宮田 遼 水橋研二 釜川章子

第10章

8/6(日) 香川県立ミュージアム講堂 (香川県県民ホール南側)

①10:30 ②13:30 130分

「鉄の暴風」と呼ばれた激しい空襲や艦砲射撃、そして上陸戦により、約20万人が犠牲となった太平洋戦争末期の沖縄戦。

高松市文化芸術活動助成事業

前売料金：一般 1000 円（当日 1300 円） 中高生（当日のみ 500 円）



10.11 Roadshow

8/19 (土) 高松国分寺ホール
(国分寺総合センター南側)

①10:30 ②13:30 115分 (無料駐車場有)
余命宣告を受けた彼女たちがたまたま手にしたのは、入院中の少女が書いた「死ぬまでにやりたいことリスト」だった。

高松市文化芸術活動助成事業

前壳料金：一般 1,000 円（当日同料金）



士を喰う
十二月

沢田研二、主演。
料理研究家・土井善晴が
四季折々の食で織る人生ドラマ
映画に挑む。

10/9 (月祝) 穴吹学園ホール (旧高松テルサ)

①10:30 ②13:30 111分（無料駐車場 有）
沢田研二が主演を務め、作家・水上勉の料理エッセイ「土を喰う日々わが精進十二カ月」を原案に描いた人間ドラマ。一年半をかけて撮影した沢田研二の待望の主演作。

前売料金：一般 1000 円（当日 1300 円）中高生（当日のみ 500 円）



圧倒的な存在感で
沢田研二が体現する
豊かな生き方

長野の山莊で暮らす作家のトム・山の実やきのこと探し、煙で育てた野菜を自ら料理し、季節の移ろいを感じながら原稿に向き合う日々を送っている。時折、編集者たちの真人の如きが、東京から訪ねてくる。食いしん坊の真知子と旬のものを料理して一緒に食べるのは、楽しく格別な時間。窓を自由に暮らすトムだが、13年前に亡くなった妻の遺骨を墓に納められずにいる。

1978年に水上勉が記した料理エッセイから、中江裕司監督が物語を継ぎだした本作は、人々がいつか忘れてしまった土の匂いのする生活を想起させ、人としての豊かな生き方を教えてくれる。主演の沢田研二は、物語を凌駕する圧倒的な存在感を見せる。映画を見終わったとき、観客はゴムと十二ヶ月を体験したことに気づくはずだ。



松たか子、火野正平、奈良岡朋子ほか、
協を固める実力派

ヒロインの真知子には松たか子。料理をはおばる姿などチャーミングな魅力十二分に発揮。脇を固めたのは、実力派俳優の火野正平、榎ふみ、西田敏行、尾美としのり。また、演劇界の重鎮・奈良岡朋子が義母を演じ、落語家の川鶴雅が映画初出演。信州の美しい自然と共に全編に流れるジャズの花束みたいな恋したなどの大友良英が担当している。

長野の人里離れた山荘で1人で暮らす作家のツトム。山で採れた実やキノコ、畑で育てた野菜などを料理して、四季の移り変わりを実感しながら執筆する日々を過ごしている。そんな彼のもとには時折、担当編集者である歳の離れた恋人・真知子が東京から訪ねてくる。2人にとって、旬の食材を料理して一緒に食べるには格別な時間だ。悠々自適な暮らしを送るツトムだったが、13年前に他界した妻の遺骨を墓に納めることができずにいた。

四季の恵みに感謝し、十二カ月を生きる。

土井善晴
料理を手掛けた
初めての映画

目も心も満たしてくれる旬の野菜で作る料理の数々、ほうれん草の胡麻和え、若竹煮、胡麻豆腐など、ツツムが研究した料理を具現化したのは、料理研究家の土井善晴。初の映画参加となつた。撮影前には開幕し、実際にスタッフが畠で育て収穫した食材を使用、四季を撮るために日本映画では異例の一年六ヶ月にわたる撮影を行なうなど、「土を喰らう」という本質に徹底的にこだわった。劇中の料理の多くは土井の指導の下、伊沢昇が実際に作っている。



10.11 Roadshow 観たら人生楽しく変わるチャンジングムービー
siliconjusen.com ■ 無料入会の登録 ■ @siliconjusen_ ■ @wazeringo_official ■ チャンジングムービー

人生のほとんどを家庭のために捧げてきた
主婦・幸枝と、仕事だけに生きてきた大金
持ちの女社長・マ子。余命宣告を受けた
人は病院で偶然に出会う。初めて人生に空
しさを感じていた彼女たちがたまたま手に
たのは、入院中の少女が書いた「死ぬま
にやりたいことリスト」だった。これまでの
人生で決してやらなかつたことを体験してい
中で、彼女たちは今まで気づくことのなか
た生きる楽しさと幸せをかみしめていく。



県民の4人に1人、20万人が犠牲となった日本国内最大の地上戦「沖縄戦」。命を懸けて「命(みち)どう宝、生きぬけ!」と叫び続けた2人の官僚と、命の重みを受け継ぎ「沖縄戦」を生き抜いた沖縄県民。それぞれの苦悩と生きることの奮闘を描本土復帰50年の節目に「命の尊さ」を次世代に継承する映画が誕生しました。

沖縄戦末期、本土より派遣された2人の内務官僚がいた。戦中最後の沖縄県知事として赴任し、軍の命令に従いながらも苦惱県民辟諱・保護に尽力した島田叡(あきら)と、島田と行動を共にし、職務を超えて努力した警察部長の荒井退造。2人から命の重を授け継いだ沖縄県民の戦火に翻弄されながらも必死に生きるそれぞれの姿を描きます。島田叡役には映画やドラマ、ナレーションなど幅広く活躍している萩原聖人。荒井役には日本映画界に欠かせない俳優・村上聰。実力派俳優の共演が実現しました。また島田の世話を役の黒職員・比嘉亮吉を吉岡里帆が熱演。演の妹で看護学徒隊の比嘉由紀を治間夏海が、映画「ひめゆり」の前に出演していた香川京子が現代の演を演じています。監督は「地雷を踏んだらサヨナラ」など社会派作品で知られる五十嵐信



萩原聖人・土村淳・吉岡里帆 池間夏海・榎木孝明・成田澤 水橋研二・香川京子
監修・脚本：五十嵐信也
原作：柏木太郎、東京：[沖縄の島民へ内陸官僚が戦う]（川辺三洋著：中公文庫）音楽：星野 プロデューサー：川口浩史 振付：江宜博
照明：山川真理 美術：篠原義典 装置：吉川 遼、酒井裕司、藤丸和也、豊島晋一、川崎徹、宮原治重、後見効果：松本謙、音響効果：大河原将
スクープアート：宮下正二
衣裳：大庭洋、メイク：高橋恵子、助監督：坂崎隆、制作相談：花房康大
製作：映画「島の島」製作委員会（TBS、朝日放送、日本テレビ、毎日放送、読売放送、KBC、KKB、日本文化放送、サンテレビ、フジテレビ、日本テレビサブチャンネル、モリタビデオ、ビニティ、エムエス、エヌエス、エヌエスエフ、エヌエスエヌ、エヌエスエヌエフ、エヌエスエヌエヌエフ、エヌエスエヌエヌエヌエフ）
配給：毎日新聞社
ニセコ＝キニコニ温泉スキー場協賛
「2022映画祭『島の島』」製作委員会
助成：エヌエヌエヌ文化芸術文化振興事業助成金（文化広報活動支援事業）
実行独立行政法人日本芸術文化振興会
shimamori.co.jp

萩原聖人と村上淳がダブル主演を務め、太平洋戦争末期の沖縄を舞台に命や平和の尊さを描いた戦争ドラマ。「鉄の暴風」と呼ばれた激しい空襲や艦砲射撃、そして上陸戦により、約 20 万人が犠牲となった太平洋戦争末期の沖縄戦。絶望の淵に立たされながらも「命こそ宝」と訴え後世に希望を託した 2 人の人物と、戦争に翻弄される沖縄の人々の姿を描き出す。